

平成 23 年度 第 2 回 標準部会 標準化会議 議事録 (案)

1. 日 時 平成 24 年 3 月 15 日 12:00～14:20
2. 場 所 機械振興会館 2 階 201-2 協会 B 会議室
3. 出席者氏名 計 11 名出席

(部会長) 森山 雅之 (コマツ)

(委 員) 内藤 智男 (経済産業省、オブザーバ)、岩本 祐一 (TC 127 委員長、コマツ)、落合不二男 (TC 214 委員長、アイチコーポレーション)、田中 利昌 (製造業部会代表、日立建機)、砂村 和弘 (部会副幹事、日立建機)、飯盛洋 (施工技術総合研究所)、山名 良 (協会事務長)

(事務局) 小倉 公彦、西脇 徹郎 (協会)

4. 議題及び審議内容

4.0 開会：事務局より配付資料を説明の後、森山部会長挨拶、西ヶ谷委員退任により飯盛委員が後任として就任の旨紹介、委員自己紹介ののち部会長の司会により議事を進行した。なお、前回議事録については、概要を事務局より説明、ご意見あればお知らせいただくこととした。

4.1 平成 23 年度活動報告：

1) **国内標準委員会：**事務局より資料 平 23-2-1-1 を参照して国内標準委員会の ISO に基づく JIS 化の状況及び今後の予定が報告・了承された。要点は下記。

- ISO 16368 に基づく高所作業車安全 C 規格 (機種別安全規格) JIS 原案作成に関して、高所作業車の生産者、使用者のバランスをとった高所作業車 JIS 原案作成委員会を組織して年度末提出予定で審議・作成中。
- 土工機械関係の ISO に基づく JIS 原案作成 (改正) については、7 件を日本規格協会に提出済み。なお、これらは同協会で規格の表記を調整後、同協会と当協会との連名で、機種別安全 C 規格改正 3 件については経済産業大臣及び厚生労働大臣 (共管) に申出、他の改正 3 件、改正時分離 1 件は経済産業大臣 (単管) に申出となる。

2) **ISO/TC 127 土工機械委員会：**岩本委員長より資料 平 23-2-1-2 を参照して TC 127 土工機械委員会の活動状況及び今後の予定が報告され、主として次の点が論議された。

- **TS 11152 (エネルギー使用試験方法)** に関して、オブザーバの内藤委員からハイブリッド機械の燃料消費量測定は日本主導で作成できないかとの指摘があり、これに対して、砂村委員から欧州勢は日本の模擬動作による測定によって燃費規制されることを本音部分では警戒していることがバラツキが大きくなる実作業条件を主張する背景となっていて日本が前面に出ることは抵抗が大きい見込みと指摘 (日本が反対の実作

業条件を両論併記の案文作成を日本が実務担当するのかの点含め)、今後の対応方針、すすめ方に関して再検討することとされた。

- **ISO 7096 (座席振動伝達特性) 及び ISO/TR 25398 (全身振動)** 改正に関して、日本は新業務項目提案反対であったが、(承認された以上、日本に多い油圧ショベル関連などで検討事項があれば日本負担で検討作業を実施せざるを得ず) かなりの負担発生の懸念がある点を指摘。
- 3) **ISO/TC 214 昇降式作業台委員会** : 落合委員長より資料 平 23-2-1-4 を参照して了承された。
- 4) **標準部会平成 23 年度事業報告 (案)** : 標準部会報告について資料 平 23-2-1-5 により事務局案が説明され、一部誤記訂正、表現を簡潔とすることとして了承された。

4.2 当面の各種課題について

- 1) **JISC 産業機械技術専門委員会委員推薦の件** : 内藤委員から、JISC の産業機械技術専門委員会の委員推薦に関して、(JIS 原案を作成する) 各工業会から代表を選出、近年の各種状況のもとで、委員の選出に関しても官の OB を避ける、任期を定めるなどの制約がでてきており、JISC 事務局の立場からは標準部会を統括する方、実質的な審議の点からできれば製造業の方が委員となるのが好ましい旨説明されたものの、企業からの協力の点での制約もあり、協会から推薦する方には出来る限り標準部会との情報共有を図ることとして、持田氏 (コマツ商品開発室長) を推薦させていただくこととなった。
- 2) **建設機械関係 JIS 整備と、その制約に関して (資料平 23-2-1-1、同平 23-2-2-2)** : 土工機械関係の ISO で、既にいったん JIS 化されたものの、その後改正されて未だ JIS の改正が追いついていないものが多々ある点に関して論議され、内藤委員から、協会としての方針を見直す必要があるとの指摘があった。
- 3) **ISO/TC 127 土工機械専門委員会ブラジル総会出席困難対応の件 (資料平 23-2-1-2、同平 23-2-3-2)** : 外務省の海外安全情報で危険情報発出のもとで同総会に出席するのは不可、対応を今後検討とされた。

4.3 平成 24 年度活動計画

- 1) **国内標準委員会 (資料平 23-2-1-1)** : ISO に基づく JIS 原案 (追補) 作成 1 件、その他 JCMAS 技術委員会から提案あれば JCMAS 検討、他に JIS 及び JCMAS 見直しとされ、また、ISO の和訳の是非に関しては前記の如く協会方針再検討とされ、事務局として草案作成とされた。
- 2) **ISO/TC 127 土工機械委員会 (資料平 23-2-1-2)** : 前述の如くブラジル総会出席不可、対応を今後検討とされた。
- 3) **ISO/TC 214 昇降式作業台委員会 (資料平 23-2-1-4)** : 特段の論点は無いもの

の、5月に中国でWG会議が予定されている筈であるが現時点で何ら連絡がない問題が指摘された。

- 4) 平成24年度事業計画(案)(資料平23-2-3-5)：前記に関連して、TC127ブラジル総会出席困難の件、また、当面のISOのJIS化に関しては限定された事項のみとする旨を簡潔に記すこととされた

以上